

情勢報告

産地のPRに115名が結集！産地交流会開催



本会議、現地、女性部交流会

3月15日にJA土佐あき園芸研究会が産地ブランドの強化のために、販売促進、産地PR活動を推進する産地交流会を初めて開催した。

農家115名や園芸連、市場関係者とともに高知野菜サポーター2名の講演、女性部による安芸の特産野菜を用いた料理の試食、各品目に分かれての市場懇談会、さらに翌日にはJA土佐あき女性部との交流会を行い、盛り上がりを見せた。

参加者からは産地は思いをもっと伝えないといけないといった声もあり、振興センターでは、管内各地区毎に行っている産地のPR活動をつないで産地全体の取り組みになるようフォローしていく。

重油の高騰もこれで大丈夫 芸西ピーマン部会現地検討会より



ヒートポンプ設置方法を話しあう生産者ら

3月28日にJA土佐あき芸西ピーマン部会は現地検討会で重油代替加温機を導入した部長や副部長の圃場を視察後、勉強会を開催した。

今回のテーマはずばり重油高騰対策。90円/リットルを超える中、役員らはいち早くヒートポンプや木質ボイラーを導入し、節油に努めている。

勉強会では19名が参加するなか、部長らは経営安定のために重油加温機のみとの時と導入後を比較したコストを数値で示しながら、「コスト削減となった」と説得力のある内容で切り替えを訴えていた。

振興センターでは、重油代替加温機の経済性を現地データから検討し、情報提供を行うことで部会活動をフォローしていく。

室戸市吉良川で児童らが田植え体験



田植え風景

4月17日、室戸市吉良川で吉良川小学校など地域の児童・園児ら23名と農家、JA、振興センターが参加して田植えが行われた。

振興センターは農家やJAと協力して、児童らに苗の植え方を教えながら一緒に田植えを行った。

一時間ほどかけて3aの水田に、小学生は等間隔に、保育園児は個性あふれる形に、それぞれ思いのこもった苗が並んだ。児童からは「水が冷たかった」、「泥ですべった」、「楽しかった」などの声が聞かれた。

振興センターでは、今後も農家の地域活動を支援していく。

トラクタのお披露目により農作業受託の増加をねらうー田野町東大野営農組織ー



あぜぬり機付き新型トラクタの披露

4月22日に田野町東大野営農組織が、集落営農・拠点ビジネス支援事業を活用して購入した、トラクター・あぜぬり機のお披露目会を実施した。当日は、あいにくの雨で試運転はできなかったが、多くの方が集まってくれた。会長から、「大野台地に耕作放棄地を出さず地域を守っていこう」と、力強い宣言があり、ただちに農作業受託を募る話し合いがもたれた。

振興センターでは、東大野の集落営農活動がスムーズに進むよう支援していく。